

大阪府の地震

2022年2月

目次

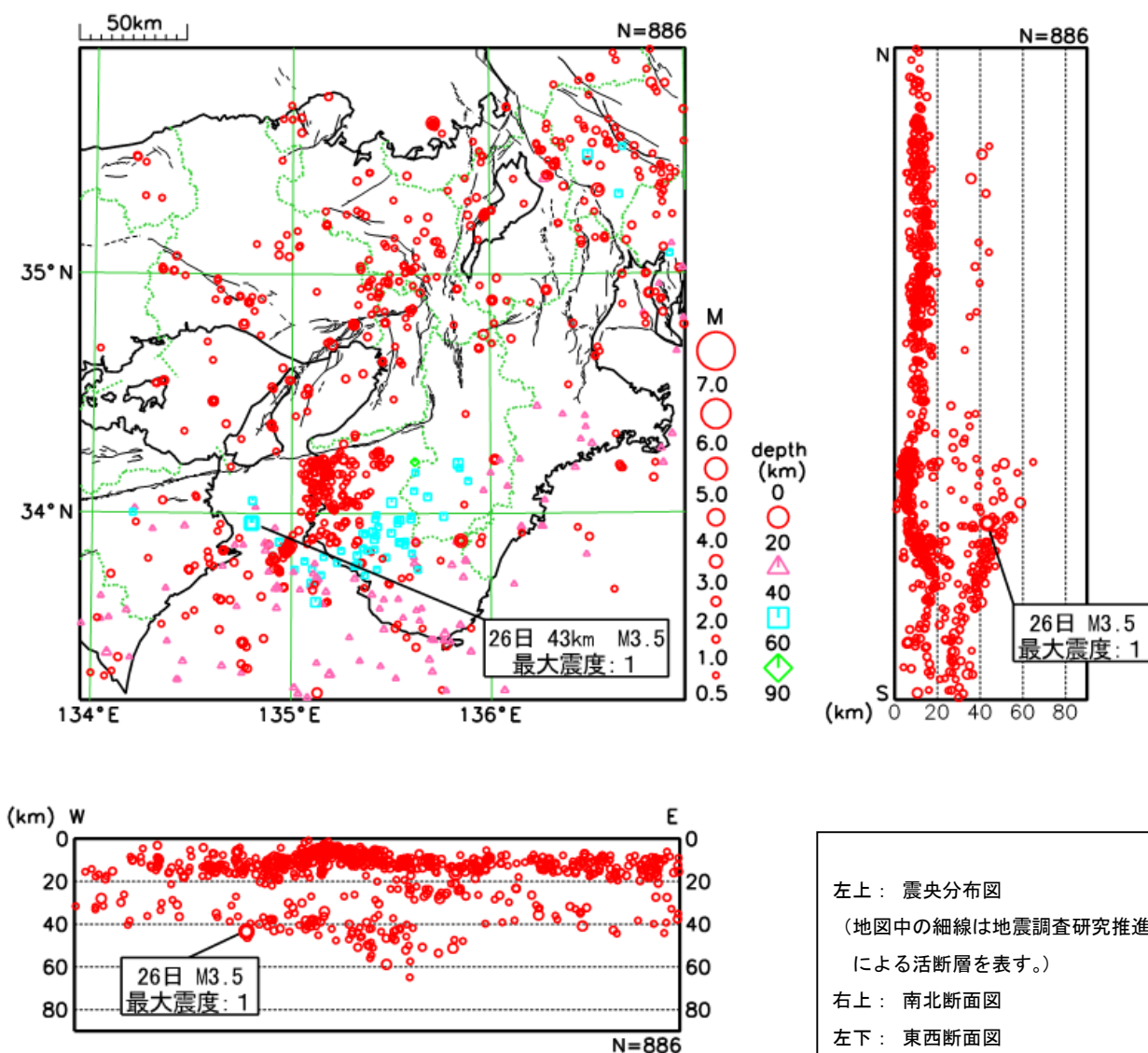
近畿地方及びその周辺地域の地震活動	1
震央分布図と断面図	
概況	
近畿地方で震度1以上を観測した地震	2
府県別震度一覧表と震央分布図	
・大阪府で震度1以上を観測した地震	
※2月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした。	
地震一口メモ No. 201	3
海・川からの津波に備える	

- * 「大阪府の地震」は月1回発行し、近畿地方及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行います。また、「地震一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

大阪管区気象台気象防災部地震火山課

近畿地方及びその周辺地域の地震活動

(2022年2月1日～28日)



左上：震央分布図
(地図中の細線は地震調査研究推進本部による活断層を表す。)
右上：南北断面図
左下：東西断面図
※図中で最大規模の地震に注釈。

概況

2月の上図の範囲内におけるM(マグニチュード)2.0以上の地震は36回(前月53回)でした。このうち最も規模の大きかった地震は26日の紀伊水道の地震(深さ43km、M3.5)で、この地震により、兵庫県、和歌山県、徳島県で震度1を観測しました。

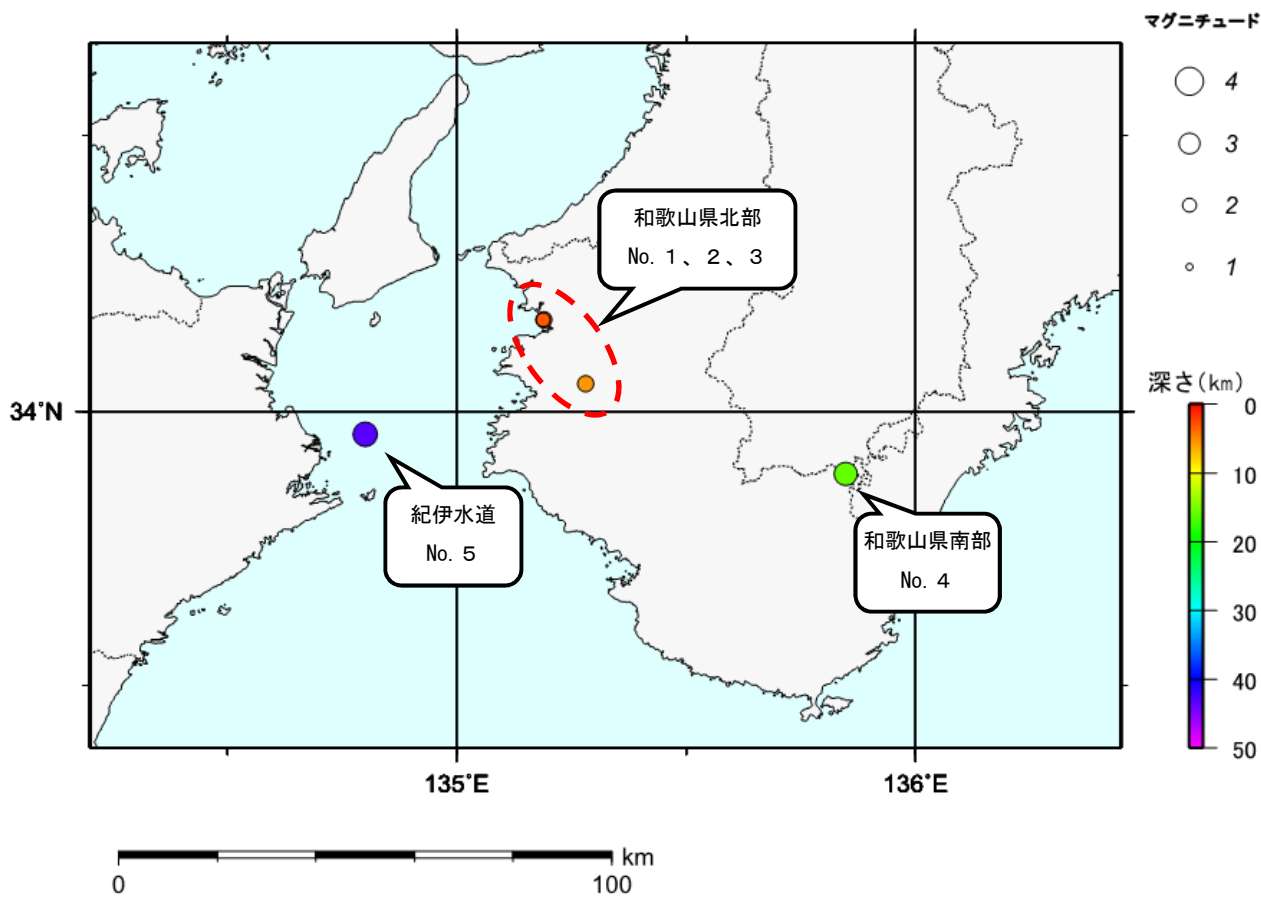
2月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした(前月4回)。また、2月に近畿地方で震度1以上を観測した地震は5回(前月14回)でした。

近畿地方で震度 1 以上を観測した地震

府県別震度一覧表

2022年2月1日～2月28日

No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ km	M	最大 震度	滋賀 県	京都 府	大阪 府	兵庫 県	奈良 県	和歌 山県	
	年月日	時分秒		度分	度分										
1	2022/2/4	15:39:03	和歌山県北部	34° 03.0'	135° 16.8'	6	2.4	1							1
2	2022/2/5	14:54:25	和歌山県北部	34° 10.0'	135° 11.3'	4	2.0	1							1
3	2022/2/17	08:05:17	和歌山県北部	34° 09.9'	135° 11.3'	4	2.4	1							1
4	2022/2/24	05:05:44	和歌山県南部	33° 53.1'	135° 50.9'	16	3.4	2							1
5	2022/2/26	10:35:06	紀伊水道	33° 57.5'	134° 47.9'	43	3.5	1				1			1



震央分布図 (注釈の番号は上の表の番号に該当します。)

地震一口メモ No. 201

海・川からの津波に備える

危険な場所をハザードマップで確認しましょう

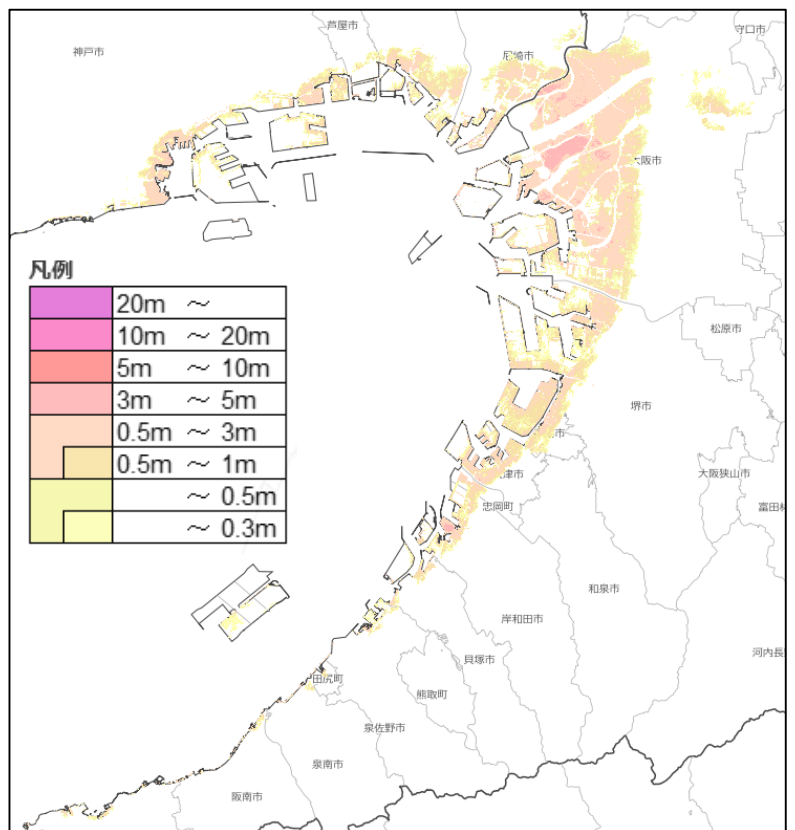
毎年3月11日が来ると東日本大震災について改めて考える方も多いと思います。東日本大震災で甚大な被害が出たのは大阪から遠い東日本ですが、ニュースなどで流れる津波の映像を見て衝撃を受けた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。東日本大震災で岩手県大船渡市では16.7mもの津波が襲ったと推定されています。16.7mというとビルの4～5階に相当する高さです。普段の穏やかな海からは想像のつかない高さだと思います。近畿地方に住む私達が備えている南海トラフ地震でも巨大な津波が予想されています。最悪の場合30mを超える津波が高知県などを襲う可能性があります。大阪でも5mの津波が来ると推定されます。5mは2階程度の建物が水没するくらいの高さです。さらに、津波は普通の波とは異なり海底から海面までの海水全体が動いて襲ってくるために、50cm程度の高さでも成人男性が立ってられないほどの威力があります。津波はオリンピックの陸上の短距離走選手並みの速さで襲ってくるため、津波を見てから逃げるのでは間に合いません。津波が来ることを警報などで知ったらすぐに行動できるように事前に準備しておく必要があります。

津波への備えとして、避難場所を考えておくことや避難訓練をすることなどがあります。また、ハザードマップなどで津波の危険がある場所を知っておくこともとても重要です。下図は大阪府の津波浸水想定ですが、海の近くだけでなく内陸にも津波の危険があることがわかります。津波は川も遡上してくるのです。東日本大震災では川を遡上した津波により河口から離れた場所でも大きな被害が出ました。大阪でも1854年の安政南海地震で安治川、木津川に山のような大波が入ってきて、大勢の人が乗った船が川の上流に押し流されて転覆したと伝えられています。大阪はかつて「水の都」と呼ばれていたように多くの川があり、海も近い場所です。普段はそれらから恩恵を受けていますが、地震が起こったら脅威となることを忘れずに日々備えることが重要です。

右図 津波浸水想定 (想定最大規模)

重ねるハザードマップから引用。
(<https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>)

重ねるハザードマップでは、津波や土砂災害など色々な災害の危険性がある場所・避難場所を重ねて表示することができます。また、このマップからお住いの市町村のハザードマップを見ることができます。



いつでも起こる可能性のある地震に備えて、事前にハザードマップをご確認ください！